

文月を迎えて

分所長 高木 敏彦

長かった緊急事態宣言が解除されましたが、まん延防止とかですつきりとしれない毎日です。しかしながら徐々にですが普段の生活状態に戻りつつあります。今月末には、東京オリンピックが開催されますが、観客の入場は制限される見込みですので、テレビ観戦が主体とならざるを得ないです。

分所月次祭での直会も様子をみて、再開の時期を考えたいと思います。直会は祭典の一部で重要な催しであることと中断する中で痛感した次第です。皆様とのご歓談を楽しみに、一日も早く通常の祭典を再開し大勢の皆様と一緒に参拝ができる日をお待ちしています。

三河本苑の事務局員の募集をしていますので、ご奉仕の可能な方はご連絡ください。**8月より、月、水、土、日**の週4日本苑駐在となります。

三代様の思い出

高木 敏彦

自分が生きてきたこれまでの人生のうちで三代様にご面会できたのは何回あっただろうか。振り返ってみると、最初のご面会は小学校2年生のお正月に初めての本部修行で亀岡に行った時。修行者との教主様面会が朝陽館の和室であった。修行者のみんなは教主様との面会という事で緊張して待機していた。その時、突然修行者が座っている後ろの襖を開いたおばあさんが「あつ すみません！間違えた」といって一度引込み再び入ってこられた人が三代教主様だった。そのさつくばらんな対応で緊張が解け

てみんな笑い顔でご面会をした。気さくで庶民的な三代様のお人柄にみんな魅了された。(昭和三十六年 三代様五九歳)

二回目は一九歳の浪人の時に迎えた青年祭での野点茶席。天恩郷の松林にしつらえたお茶席に三代様が入席されて若輩者の私がお点前をして一服差し上げた。緊張していた私を優しい眼で見守って頂いた。何かおつしやられたが残念ながら記憶にない。(昭和四十六年 三代様六九歳)

三回目は梅松館のお茶室で女房と結婚前に伺いお茶を頂いた。その時、女房を見て「若い人はいいわねえ。年が寄ると手のしわが隠せなくなる。それと、口元がゆるんでくる」と御自分の手を隠しながら恥ずかしそうにされて笑われた。(昭和五十二年 三代様七五歳)

最後は、九月二三日の秋分の日。金原さんよりお亡くなりになったという連絡を受け、朝陽館でのお別れの挨拶をと、豪雨の中車を飛ばして名古屋から走った。長女の香春、次女のさやかの名前を三代様からご命名頂いたこともあり、子供たちも一緒にお別れのご挨拶をした。きりつとされたご尊顔だった。(平成二年 享年八八歳)

大本の弾圧時代を懸命に耐えて裁判費用等の金策に駆け巡りご苦勞の連続であった三代様。晩年は、反教団問題でご心痛の日々であった。それでも信者の前では、みじんもみせずいつも微笑みを浮かべて優しく対応をされていた。お亡くなりになられて今年で三一年になる。

大出口国直霊主命守りたまへ幸はへたまへ
惟神靈幸倍ませ

主な行事予定

七月四日(日) 午前一〇時より

三河本苑臨時総代会

七月一〇日(土)

出雲火のご用120周年記念大本出雲歌祭り

七月一日(日) 午後一時半より

碧南分所月次祭 担当第三班

七月一八日(日) 午前十時より

三河本苑月次祭

七月二四日(土) 午前十一時より

三河本苑神の家 上棟祭 代表者による参拝

八月七日(土) 亀岡万祥殿にて

瑞生大祭

八月八日(日) 午後一時半より

碧南分所月次祭 担当第一班

八月二十二日(日) 午前十時より

三河本苑月次祭

7月の誕生者

おめでとーいございます！

坂野敦也7月3日 藤浦理子7月6日

松村裕子7月11日 藤浦茂夫7月13日

松村好久7月14日 中山恵子7月15日

久野明典7月16日 萩原将矢7月16日

斎藤郷乃7月17日 安藤結仁7月25日

三浦やよ7月28日 石川勝久7月29日